

## 市民創世会・公明党合同視察報告書

作成者：公明党 奥村義則

1 1月16日 長野県飯田市視察（再生可能エネルギー推進施策について）

- ・ 2009年1月、国は13都市を環境モデル都市に選定。その中に飯田市も選ばれた。

### 飯田市の取り組み

- 1) 飯田市の面積658.76平方キロメートル、面積の84.3%が森林であり、この特性を活かし林業の活性化と地球温暖化対策のハイブリット事業としてペレットストーブ、ペレットボイラーを利用し、森のエネルギーの普及展開。
- 2) - 1 豊富な日照時間（月平均140時間～200時間）を活かし市民ファンドを原資として、地域のエネルギー会社（おひさま進歩エネルギー株）が太陽光発電による電気供給を行う「太陽光市民共同発電事業」を展開。
- 2) - 2 飯田市川路城山に約18,000㎡の敷地に太陽光発電パネル4,704枚を設置。年間発電量100万kWh（一般家庭300世帯の年間電力使用分に相当）を想定、飯田市と中部電力株が推進してきた「メガソーラいいだ」がH23年1月28日に営業運転開始。この事業による年間CO2削減は400tと推定。
- 3) ハイブリッド車の心臓メカニズムを独占する「多摩川精機株」や太陽電池セル工場を増設した「三菱電機株中津川工場・飯田工場」等の環境関連企業を有し、産業界との連携を図る。

## [まとめ]

今回の飯田市の視察で学ばしていただいたのは、地域の特性を最大限に活かして、低炭素な環境政策を推進していることに感銘を受けました。

特に市民から出資金を集め日本国内の自然エネルギーを増やし、地球温暖化防止の事業を推進している「おひさまファンド」は、出資金は太陽光発電を中心とした自然エネルギー事業に直接投資、事業から生じた収益は出資者の方々に元本返還及び利益の分配を行なっている事業や、新企画で飯田市と飯田信用金庫との協働で取り組んでいる【0円システム】は一般の住宅に太陽光発電パネルを0円で設置。9年間月々定額の料金（19,800円）を支払ってもらう。省エネを努力して売電すれば、月々の負担を減らせる。

10年目以降は譲渡となり、発電分全て収入になる。このような仕組みとなっていて、明確な投資事業として、市民からの出資と地域金融機関から融資で資金調達。飯田市は太陽光発電普及政策の一環として財政支援。広報等、市のあらゆる媒体で情報の提供。出資者にも設置をされる地域の一般住宅にも行政にも電力会社にも中心事業者（おひさまグリッド）全てにメリットのある企画であると思われます。

鯖江市も1年を通じての気象状況など地域的な特徴を考え、民間の発想も取り入れ、エネルギー問題など地球温暖化対策を考えることも必要ではないか。

環境審議会の委員の一人として審議会において訴えていきたい。